

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こども発達支援事業所すずらん (児童発達支援)		公表日		2026年2月18日	
		チェック項目		工夫している点		課題や改善すべき点	
		はい	いいえ				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員を多く配置し、児童発達支援管理責任者も子どもの様子を把握するために、支援に入って対応しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動室、児童発達支援の部屋、カバン棚と分かれています。子どもたちがそれぞれの場で何をすればよいかわかりやすくなっています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	○		毎朝、職員で清掃をしてから子どもたちを迎えています。空気清浄機や加湿器、エアコン等、子どもたちが心地よく過ごせるようにしています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		体調が悪い時、個室で対応できるようにしています。また児童用のベッドを用意しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎月、ミーティングを行い、今日の活動、子どもの様子、振り返りを行っています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		今回初めて事業所の評価を行っていただきました。今後保護者の意向、意見に基づき、業務改善に繋げていきたいと思っています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見をもとに、2月に業務改善委員会を行います。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	利用者処遇向上のため、監査の方に相談・苦情・事故について報告をし、監査をしていただいています。	法人として第三者による外部評価を行っておりません。今後法人本部と協力して進めていけるようにします。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法定研修を含め、オンデマンドでの研修、各種委員会での研修等を行っています。また公開療育の参加、外部の研修の参加をしています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		すずらんで行う支援プログラムを作成し、ホームページ上で公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		すずらん独自のアセスメント、発達段階アセスメントシートを利用し、保護者のニーズ、課題を分析して、計画を作成します。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		アセスメントを行い、児童発達支援管理責任者が計画を作成し、必ずスタッフと一緒に計画の内容、支援方法を検討しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画は必ずスタッフと検討し、スタッフと共有しています。それをもとに毎月ケース会議を行い、支援の内容の検討をしています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		毎日、その日のこどもの様子を記録して、ケース会議の場で検討し、支援にあたっています。	標準化されたツールを利用していません。今後導入をしていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		それぞれの観点で、ねらい、支援内容を計画し、具体的な支援内容を設定しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムは、児童発達支援管理責任者が大きな内容を計画し、それぞれの担当が具体的な内容を発案し、活動会議で内容を検討しています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ねらいをもとに、活動を検討しています。月の中でバランスよく活動できるように検討しています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの発達段階に応じて、個別活動、集団活動を計画しています。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		児童発達支援では、朝ミーティングを行って、内容、役割を確認しています。		
関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		活動後、記録をしなくてはならないため時間がなかなか取れませんが、気になることは報告をし、次の日やミーティングで必ず共有するようにしています。	児童発達支援の支援が終わった後に、時間を取って振り返りができるようにします。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動後、必ず記録をとり、毎月子どもの様子をまとめてケース会議で子どもの様子、支援の内容を検討しています。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1回は、必ず評価をして計画の見直しを行っています。		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議、関係機関との会議には、児童発達支援管理責任者と、児童発達支援のチーフが参加しています。		
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		リハビリに通っている医療機関や保育園に児童発達支援管理責任者、スタッフが行き、リハビリの様子を見学したり、アドバイスをもらったり、保育園と連携を取ったりしています。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		個別支援計画や評価を保育園に渡したり、その日の活動の様子を伝えたりして、情報共有、相互理解を図っています。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		4月から開所し、まだ就学に関係する子どもがいません。	
	28	(28-30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					

連携	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を回り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターの研修会に参加をしています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもも活動する機会があるか。	○		同法人の保育園の行事に参加をしたり、学童保育の小学生と一緒に活動をしたりしています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		お迎えで会える保護者には、その日の様子を口頭で伝えていますが、また会えない保護者にはきつずノートでその日の様子を連絡しています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			ずずらん独自に保護者に向けての研修を行っていませんが、情報提供を行っています。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		1年契約のため、毎年契約時に説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画を作成する前に面談と子どもの様子を見させていただき、保護者、こどものニーズを把握するようにしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		必ず支援内容の説明を前期、後期に分けて行い、保護者から同意をいただいています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		個別支援計画の面談とは別に、年に3回療育相談会を行っています。またお迎え時に子どもの様子を伝え、保護者の相談に応じています。緊急の時は、きつずノートでの相談にも可能な限り、対応しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		父母の会はありませんが、親子でのレクリエーションを企画したり、同法人の学童保育と共催で懇談会を行ったりしています。また兄弟児支援として一緒に課外活動に出かけています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談、苦情、要望があった場合は、迅速に上司に報告し、対応しています。またスタッフにも共通理解を図っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、ずずらん通信を発行し、きつずノートでの配信、ホームページ上に掲示しています。	Instagramを法人と一緒にしていますが、なかなか更新ができないところです。SNSの更新が不慣れですが、学んでいきたいと思っています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報公開については保護者の同意を得て、写真等気を付けています。また個人記録等は鍵のかかる棚に保管をしています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		きつずノートを活用し、保護者との意思疎通や情報伝達をしています。不安感がある方の返信は、なるべく早く返信するようにしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		今年度初めて、同法人の学童保育と共催で学童祭を行いました。町内会や地域の保育園等に案内を配布しました。	まだまだ地域の方に認知していただくには時間がかかりますが、継続して開催していきたいと思っています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し、訓練を行っています。特に、事業所の場所が土砂災害警戒区域内にあるため、別途計画を立てて訓練も行っていません。マニュアルは手に取れるところに置いてあります。	保護者への周知がまだ十分ではないため、毎年計画の時に内容の説明をしたいと思います。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、訓練をしています。	まだ備えが十分ではないところもあるため、今後検討していきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		毎年、契約時に児童カードの裏の健康カードに、保護者に記入してもらい、確認をしています。緊急時に対応できるように、縮小コピーをして避難持ち出し袋にも入れています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			現在食物アレルギーの子はいません。もし今後契約時いる場合は、保育園とも連携をとって対応します。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		保育園の避難訓練に参加をしています。	児童発達支援独自の避難訓練を今後検討していきます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		何かあった場合は、きつずノートや電話での連絡をする旨を契約時に話しています。	保護者の周知が十分ではないところもあるため、今後検討していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットのシートを用意し、ヒヤリハットがあった場合は記入してもらい、ミーティングで検討をしています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に2回、虐待防止・身体拘束禁止委員会を行い、その月にはスタッフは必ずオンデマンド研修を受け、レポートを提出しています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束に関しては、やむを得ない場合に限り行うかもしれないことを、個別支援計画の説明の際と一緒に説明して保護者の同意をいただいています。		